

ハスモンヨトウ・オオタバコガ情報第1号

令和6年11月18日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

フェロモントラップの誘殺数が平年より多い状況が続いています ほ場での防除を徹底しましょう！

本年は、9月2日付けで令和6年度病害虫発生予察注意報第8号（ハスモンヨトウ）を、10月4日付けで令和6年度病害虫発生予察注意報第10号（ハスモンヨトウ）及びオオタバコガ情報第6号を発表しています。

例年、両種とも11月にはフェロモントラップでの誘殺数は少なくなりますが、今年度は、**ハスモンヨトウは10月中旬以降急増し、オオタバコガについても引き続き発生量が多い**ことから、注意が必要です。

1 発生状況

ハスモンヨトウについて、フェロモントラップでの直近1か月の総誘殺数は、稲沢市、長久手市（農総試）、碧南市、豊田市、豊橋市、田原市で、**過去10年で最も多い**状況です（図1）。

オオタバコガについて、フェロモントラップでの直近1か月の総誘殺数は、碧南市、西尾市、豊田市、田原市で**過去10年で最も多い**状況です（図2）。

11月上旬のハクサイほ場（6地点12ほ場）で行った巡回調査の結果、ハスモンヨトウの寄生株率は2.83%（平年0.55%、昨年1.43%）で、**過去10年で最も高い**状況です。

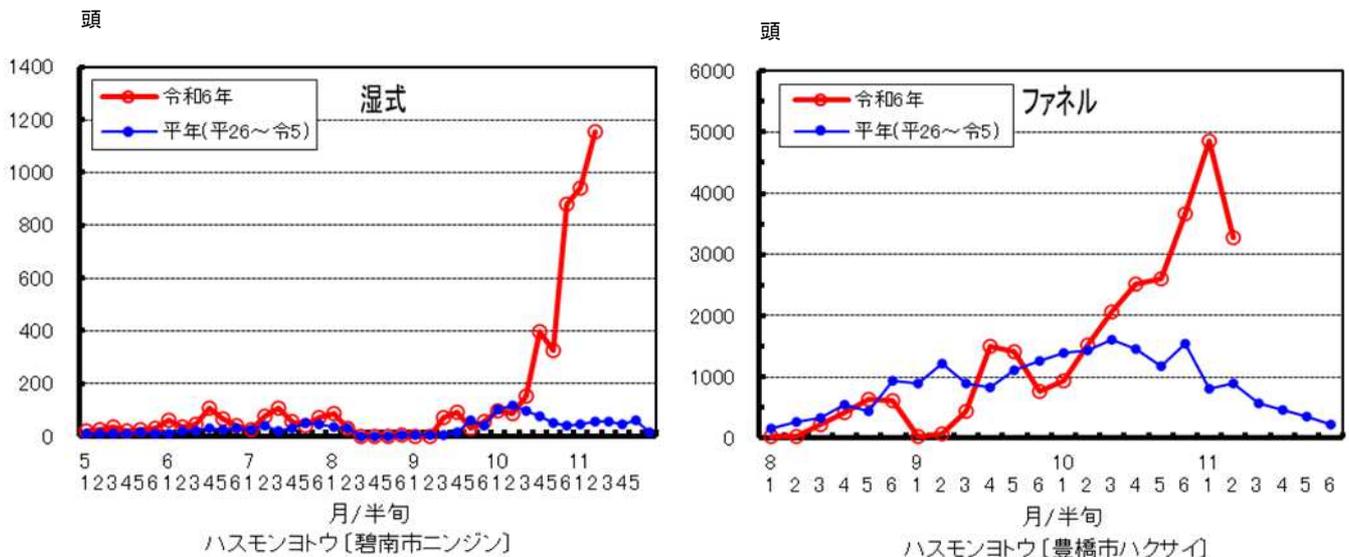


図1 フェロモントラップにおけるハスモンヨトウの誘殺状況

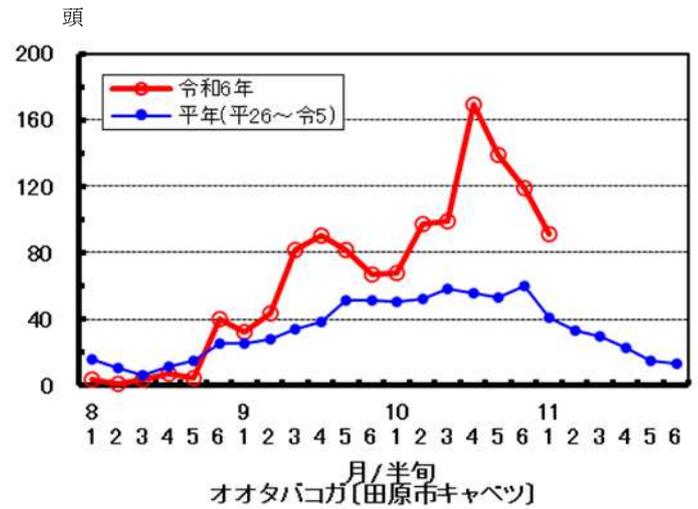
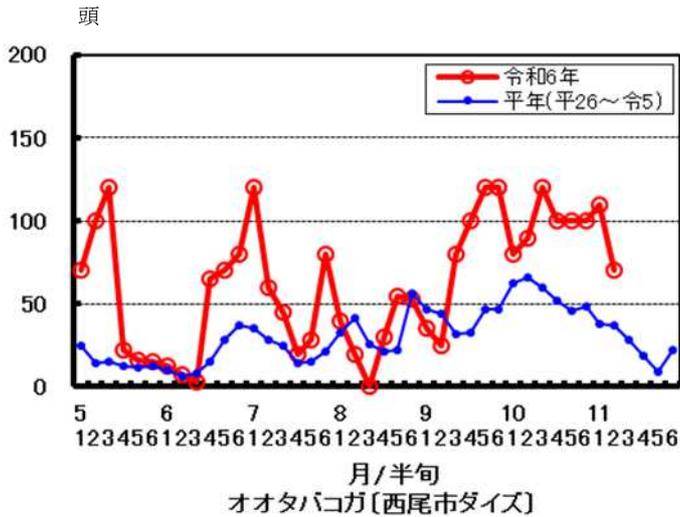


図2 フェロモントラップにおけるオオタバコガの誘殺状況

2 今後の発生見込みと防除対策

11月14日名古屋地方気象台発表の1か月予報によれば、向こう1か月の気温は高くハスモンヨトウ及びオオタバコガの活動に適した気象条件が続くと予想され、**発生量が引き続き多い状況が続く可能性**があります。

施設栽培では、開口部を防虫ネットで被覆し、成虫の飛び込みを防ぎましょう。

両種とも寄主範囲が広く、ほ場内やほ場周辺の雑草は増殖源になるため除去しましょう。

キャベツ等の結球部に食入した幼虫や、齢が進んだ幼虫に対しては薬剤の効果が著しく低くなるため、若齢幼虫のうちに薬剤防除を徹底し、卵塊や分散する前の若齢幼虫は見つけ次第捕殺しましょう。

なお、薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同じIRACコードの薬剤は連用しないようにしましょう。

参考：農林水産省農薬登録情報提供システム(<https://pesticide.maff.go.jp/>)